経済学部　教授　松井　暁　*Satoshi Matsui*

本書は４歳からの小学校低学年向けの絵本である。ある町に引っ越して来た少女の家。玄関の郵便受けで「とんことり」と小さな音がする。見てみるとすみれの花束、次の日はタンポポ。少女と新しい友だちとの出会いを描いた名作である。わが子にこの本を読み聞かせていたとき、話の結末部分で思わず声が震えてしまった。「パパ、どうしたの？泣いているの？」

そもそも言葉は単なる情報ではなく気持ちを伝えるために発生した。話し言葉をより効率化するために、書き言葉が作りだされた。しかしそれと引き換えに言葉から気持ちがなくなっていった。

学生のみなさんにレポートや論文を課すと、いつも苦痛だという声が返ってくる。結局、本の文章を丸写しするか、最近ではインターネットからコピーアンドペーストしてきておしまいである。感想や自分の意見を書きなさいと言ってもできない。どうしてこんなことになってしまったのか。それはみなさんに本を読んで感動した経験がないからだ。

読書や執筆という作業には、心で感じ取るという能力が不可欠である。逆に言うとそれがなければ何をやっても全く無意味である。本来は幼少期からこうした感覚を養っておくことが必要なのだが、みなさんは若いから今からでも遅くない。この本なら 10 分で手軽に読める。スルメのように何度も噛みしめる必要もない。童心に返ってこのような作品にふれ、涙を流す機会を作っていただきたい。

とんことり / 筒井頼子さく ; 林明子え
福音館書店 , [2012.4]
（こどものとも絵本）

本　　館	K/726/Ts93
神田分館	/726/Ts93